

2021年5月8日に函館水産試験場試験調査船「金星丸」で噴火湾環境調査を実施しました。噴火湾周辺海域の水温・塩分・流向流速の観測結果とホタテガイラーバの分布状況についてお知らせします。

(函館水産試験場のHPからご覧頂けます <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>)

## 【水温の鉛直分布】

湾内の海面から20m深までの水温は概ね5~8℃台で、ほぼ平年並みとなっています。20m以深の水温は、湾内、湾外ともに平年よりも1~3℃低く、30m以深には水温3℃以下の親潮系水が分布しています。

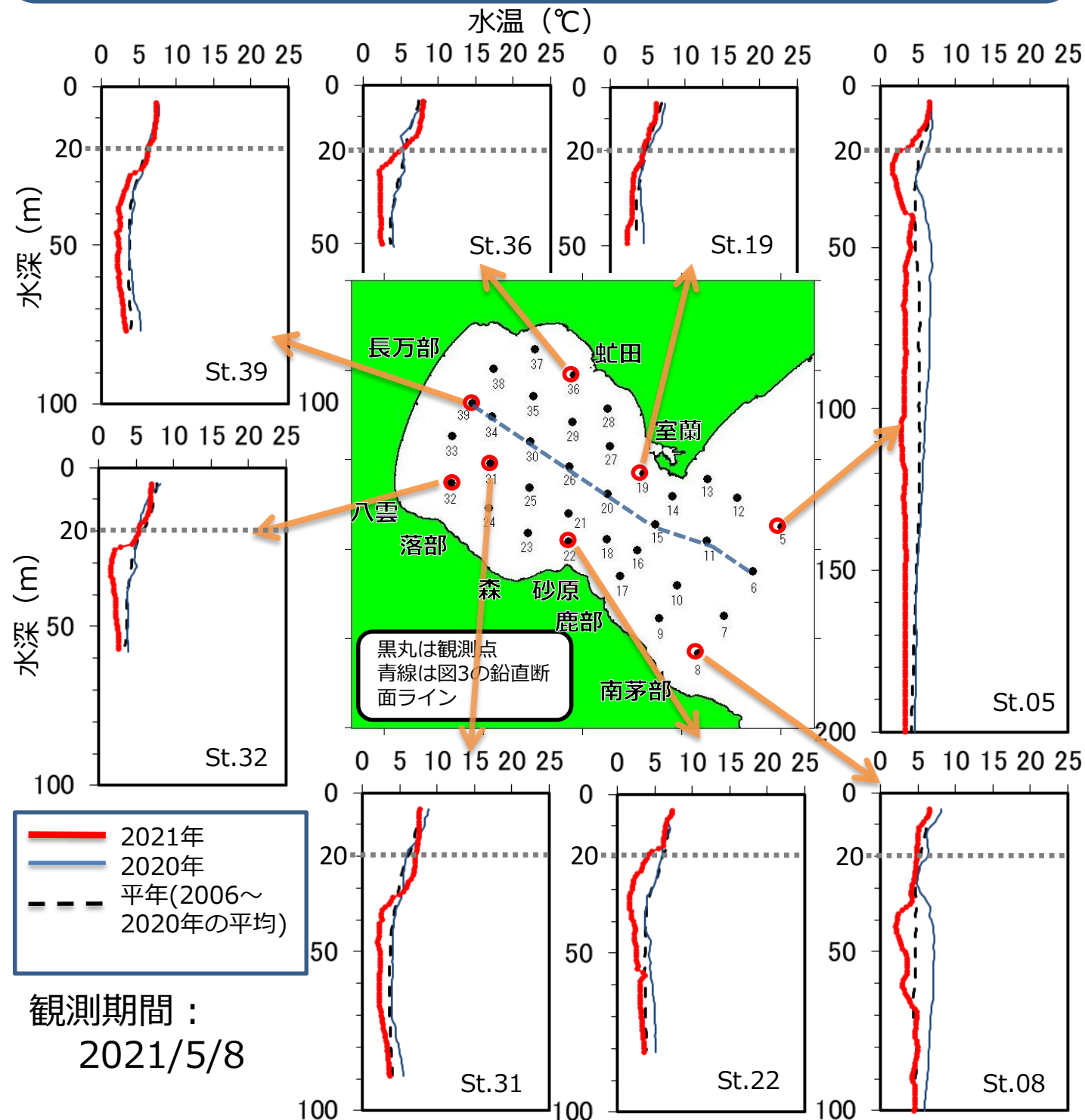


図1 噴火湾各地先の水温の鉛直分布

### 【水平分布：水温，流向流速，ホタテガイラーバ】

湾内の深度10mの水温は7℃以上で湾外よりも高くなっています (A)。深度30mでは、湾中央部の水温は周囲よりも高くなっていました (B)。これは時計回りの渦の形成により (C)，暖かい表層水が湾中央部に集められたためと考えられます。ホタテガイラーバの分布量は少なく，平均密度は5個/トンでした (D)。

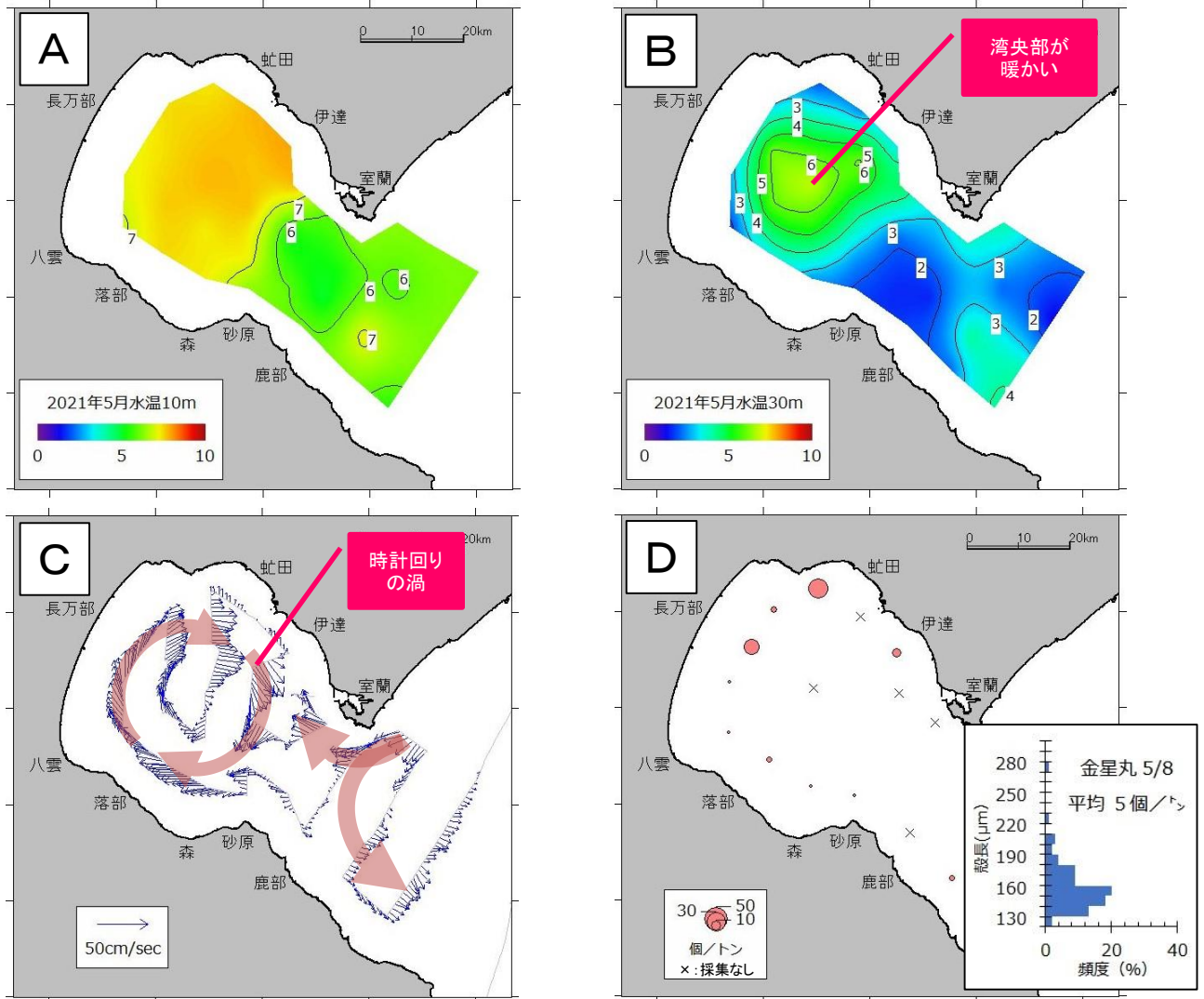


図2 A:水温 (深度10m) , B:水温 (深度30m) , C:流向流速 (深度13m) , D:ホタテガイラーバの分布

### 【水温，塩分の鉛直断面分布】

湾内の30m以浅には，河川水の影響を受けた高温低塩分水（水温6℃以上，塩分32.2以下）が広がっています。また，深度30～70m前後の中層には，親潮系水（水温3℃以下，塩分33.3以下）が湾外から湾内にかけて分布しています。

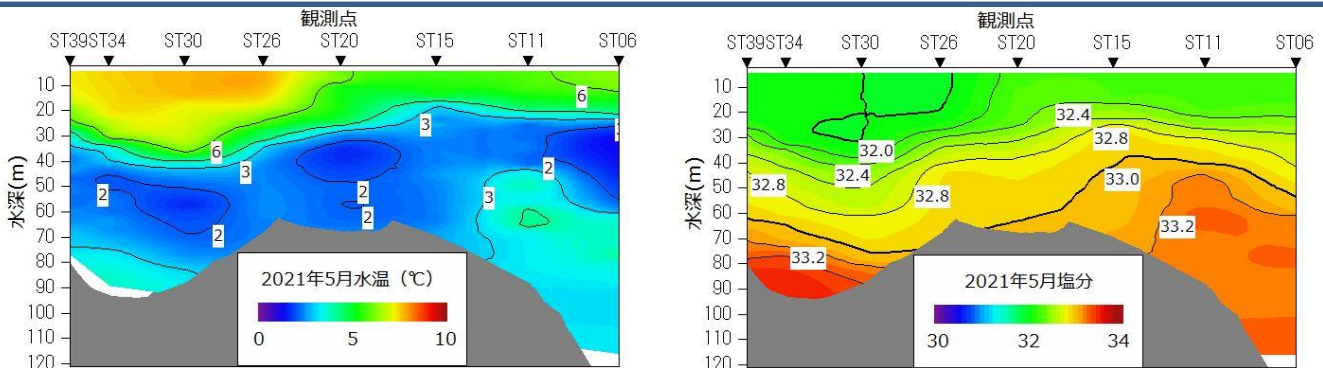


図3 水温・塩分の鉛直断面図 (断面の位置は図1参照)